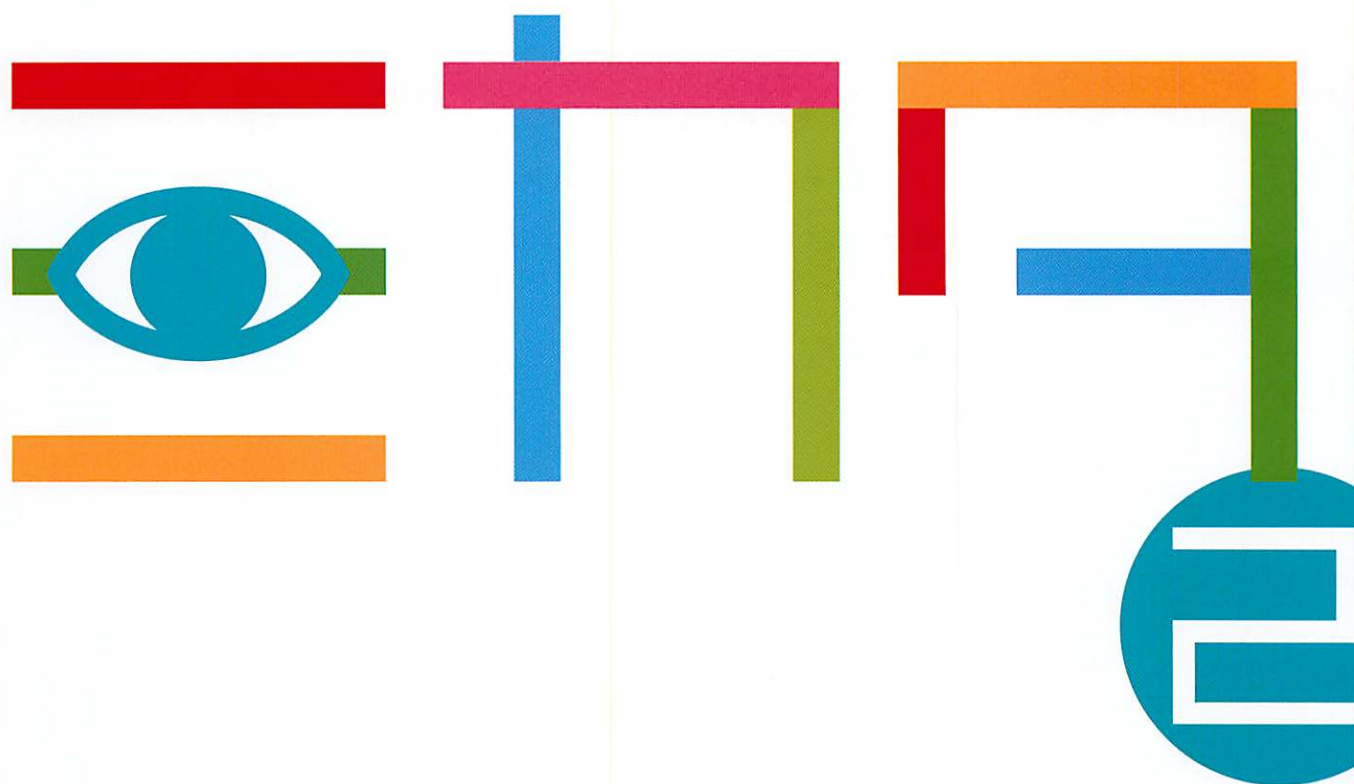


鑑賞学習教材 大型図版

みんなのミカタ



鑑賞学習教材 大型図版「みんなのミカタ2」

Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が所蔵している画家、猪熊弦一郎の
作品6点の大型図版とガイドブックによる本教材は、
学校等で「鑑賞」の授業を行う目的でつくられたものです。

本教材には6作品のうち3作品にワークシートが付属しています。
図版を前にして、すぐに考えをまとめて発言できる子どももいれば、そうでない子どももいます。
このワークシートは、みているけれども言葉にすることに慣れていない子どもや、
みんなの前で発言することが恥ずかしいと感じている子どもからも、
気づきや思いを自然に引き出せるのではないかと考えています。

「みる」という行為を通じて思いを伝え合うことで「コミュニケーション能力」が育ち、
考えたことを表現するたびに語彙が増え「言語活動の充実」に結びつきます。
こういった学習の成果は各教科にもつながることが期待されます。

本教材を使ったあとには、美術館にぜひ実物の作品をみにきてください。
鑑賞のコツを得た子どもたちは、どんな作品からも不思議を発見し、
想像力を働かせながら作品をみることができるでしょう。
本教材をきっかけに先生方や子どもたちに
「鑑賞って楽しい」と思ってもらえることを願っています。



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
鑑賞教育について考える会

3ページより、各作品について発問例を記しています。

「発問について」をよく読み、授業を行う子どもたちと楽しく鑑賞する場面を想定しましょう。

1時間の授業の中で、全ての作品を鑑賞する必要はありません。鑑賞する作品やみせる順番、発問内容などは、子どもたちの年齢や経験に応じて自由にアレンジしてください。また、一枚だけでなく複数の作品図版を並べて、似ているところと違うところを探したり、「だれかにプレゼントをするなら?」「部屋に飾るなら?」「一番好きな作品は?」と問いかけるなどして使うこともできます。

鑑賞授業のコツ

みる・気付く

じっくりみる時間をとりましょう。

子どもたちの様子をよくみておきましょう。子どもたちは、作品の気になるところを凝視していたり、思わずつぶやいていたり、友だちと確認しあう様子があるかもしれません。一人一人の気づきや思いを大切にしましょう。ここでワークシートを使ってもいいですし、クラス全体で話し合ったあとにワークシートを使ってもかまいません。

話し合う

気付いたことや、思ったこと、考えたことを発表させましょう。

作品図版でその内容を確認しましょう。

出た意見に対して、どう思うかを問きましょう。

発言した子どもに対し、どこをみてそう思ったのかを聞きましょう。

指で指し示すのではなく、なるべく言葉で表現するように促しましょう。そうすることで、子どもたちの言語能力を高めることとなります。例えば、「絵の右上にある(場所)、赤くて(色)、ハートのようなもの(形)が…」と表現することによって鑑賞につながる言葉が引き出されるでしょう。

また、なぜそう思ったのかを聞きましょう。絵をみて気付いたり、思ったりした理由を考えることで、作品の鑑賞を深めることができます。特にでなければ、同じ意見をもつ他の子どもに聞いてもよいでしょう。

さまざまな見方が出てくるのが予想されますが、自分なりの見方ができたことを大切に聞いてください。また、他の人との見方の違いを楽しめるような場にしましょう。

年譜などから事実としてわかっていることにふれる意見が出れば、そのことを伝えてもよいでしょう。

教師自身も感想については注意深く扱ってください。その意見が答えであるかのように子どもたちが受け止めてしまう可能性があります。

まとめる

ある程度意見がでたら、これまでの意見を整理しましょう。

共通点がある場合もありますし、全く違った意見もあると思います。そこに関連性がある場合は深めてもいいですし、次の作品に移ってもいいでしょう。



発問

「気になる人や猫になって話してみよう」

めあて 友だちと会話してみよう

発問について

描かれた人物や猫の様子から、まずはワークシートの一番上の吹き出しにセリフを書きます。

次に友だちとワークシートを交換し、そこに書かれたセリフに対して返信してもらいましょう。

セリフをつなげて、会話を楽しみます。シートに書くことでクラス全体で話し合う場面では発言することが苦手な子どもも、考えていることやみているポイントを伝え合うことができるでしょう。

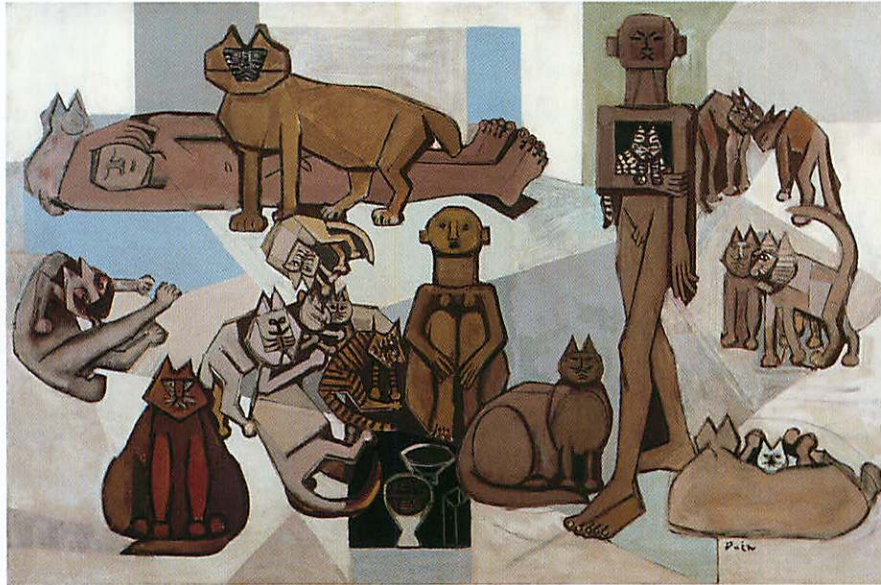
ねん
年

くみ
組

なまえ
(名前)

き ひと ねこ よう す
気になる人や猫の様子をみて、
かんが
セリフを考えてみよう

い ひと ねこ まる
セリフを言っている人や猫に丸をつけてね



とも かん
お友だちにセリフを返してもらおう

Empty speech bubble for writing a response.

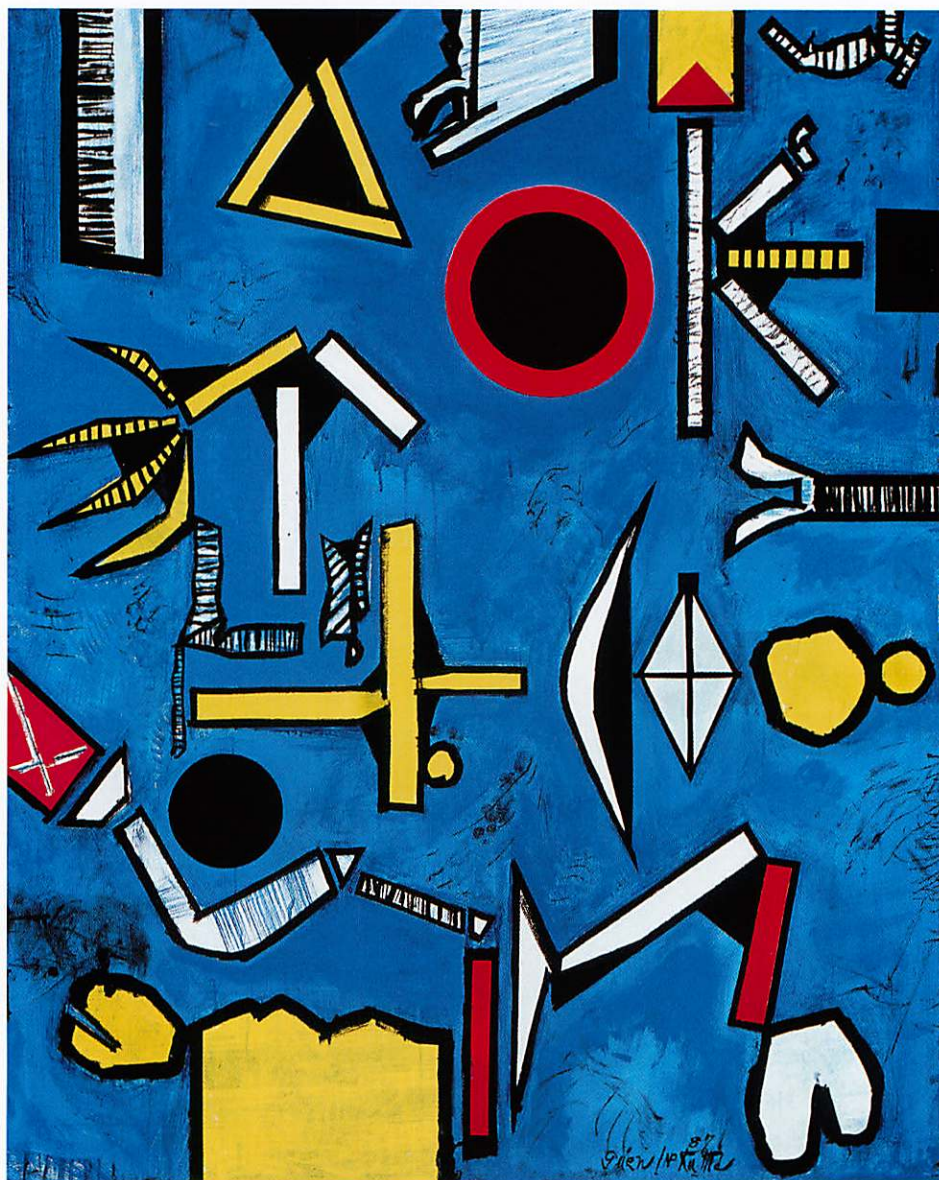
Empty speech bubble for writing a response.

Empty speech bubble for writing a response.

Empty speech bubble for writing a response.

Empty speech bubble for writing a response.

Empty speech bubble for writing a response.



発問

「どんな色が使われている？」

めあて 色の組み合わせをじっくりみてみよう

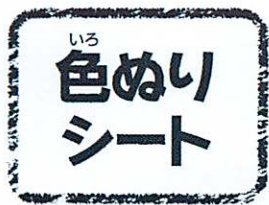
発問について

背景が青く塗られた作品ですが、よくみると一色ではありません。濃い青もあれば、薄い青もあります。

絵具が滴っていたりかすれていたたり、黄色の下に青が透けている部分もあります。

背景の色をきっかけに、他の色の組み合わせについても話し合ってみましょう。

限定された色を使って、ワークシートに彩色することで、自分なりの色の組み合わせの面白さを発見できるでしょう。

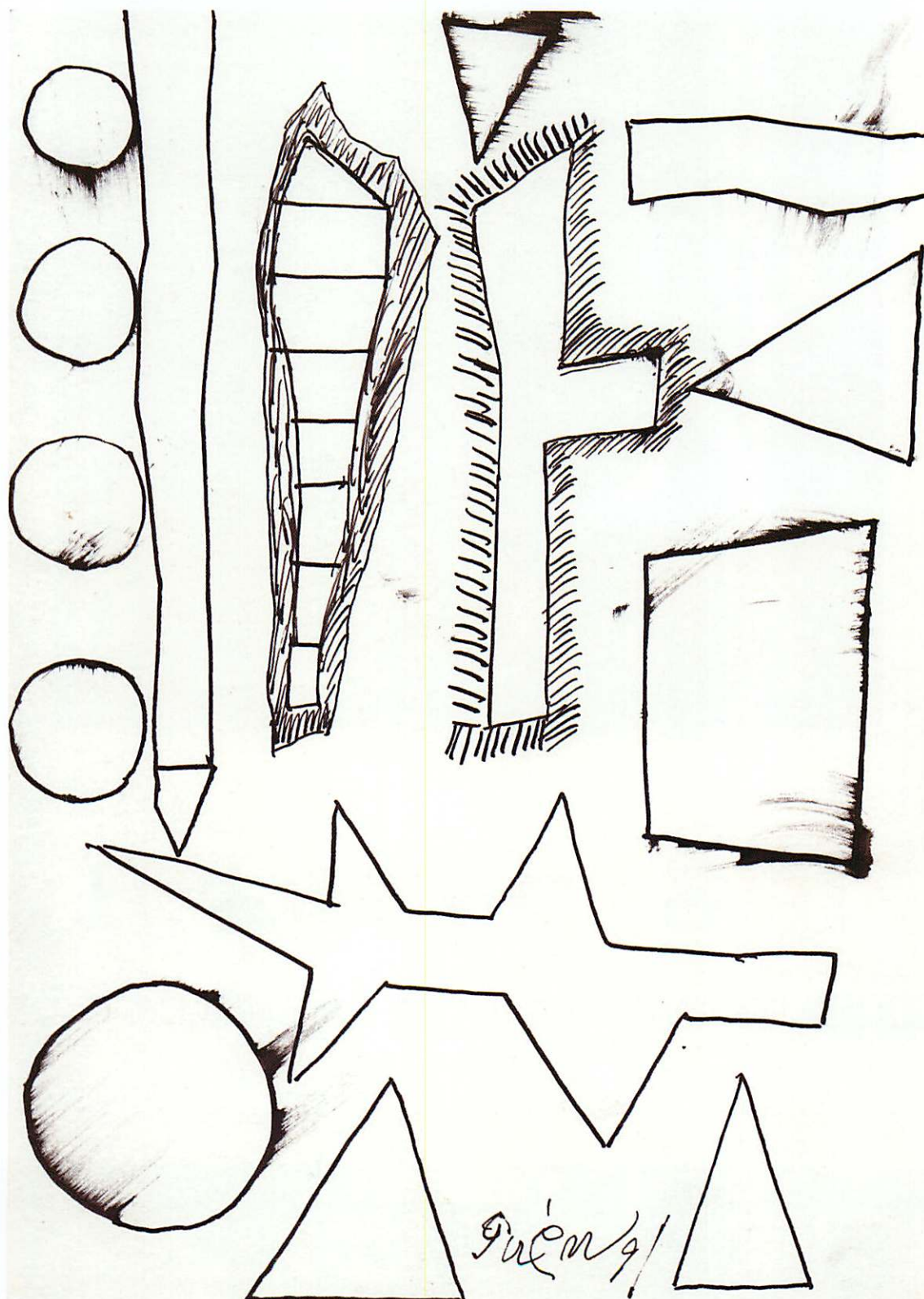


ねん 年 くみ 組

なまえ
〈名前〉

好きな3色と黒だけで色をぬってみよう

しろのこぶぶんかんが
白く残す部分を考えてみるのもいいね





発問

「題名をつけてみよう」

めあて ▶ 描かれているものや様子から想像してみよう

発問について

題名から絵をみることもできますが、もし題名が隠されていたら？
それを考えるには、描かれたものや様子、色などを参考に想像力をはたかせて絵をみることになります。
作家がつけた題名を聞いて、もう一度絵をみて話し合うのもいいでしょう。

*本作品は「ミモカ・アートカード」とリンクしています。



ねん
年

くみ
組

なまえ
〈名前〉

だいめい
題名

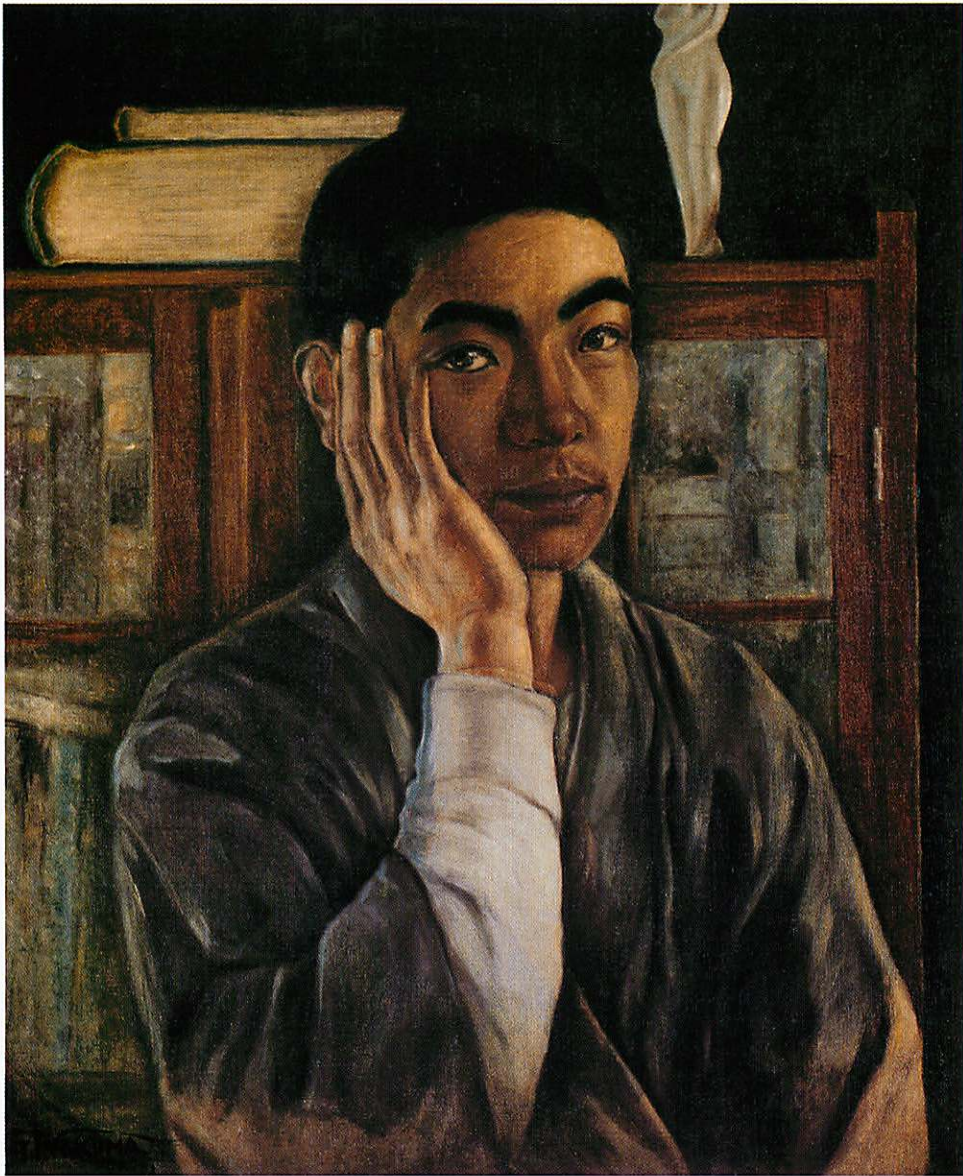
だいめい
なぜこの題名をつけたのかな？

とも だいめい き りゆう
お友だちがつけた題名で気に入ったものと、その理由は？

だいめい
題名

りゆう
理由

だいめい き おも
いのくまさんの題名を聞いてどう思ったかな？



発問

「この人どんな人？」

めあて ▶ しぐさや表情、背景などから想像してみよう

発問について

描かれている人物の服装や表情、周りに描かれたものなどを見て、どんな生活をしている人かを想像します。よく話し合ったあとで、この絵が猪熊の自画像だということを話し、作家について調べたり、まとめたりする学習につなげることもできます。映像教材「guén 猪熊弦一郎」を参考にするのもいいでしょう。



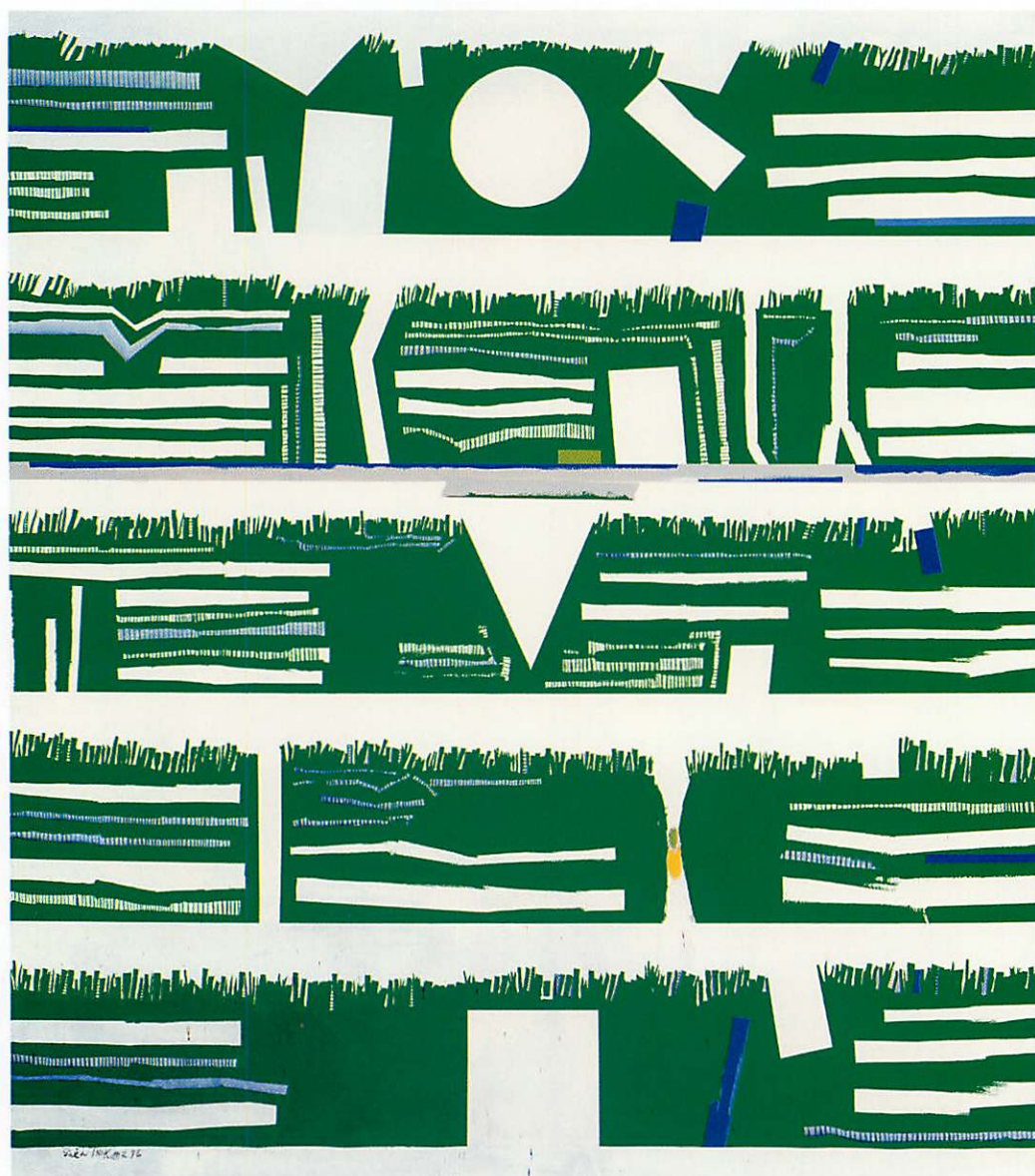
発問

「不思議なところある？」

めあて 絵の中の不思議を見つけよう

発問について

椅子の足や床が歪んでいたり、目や鼻の描き方がちょっと変わっていたり、よくよくみていくと不思議がいっぱい詰まった絵です。何が描いてあるのかよくわからない絵もあるかと思いますが、そこであきらめずに、よくみて不思議に思うことができれば鑑賞の第一歩を踏み出せたことになります。まずは、不思議を発見してみましょう。



発問

「どんな音がしそう？」

めあて 絵をみて音を想像しよう

発問について

まずは絵をよくみて、どこにどんな音を感じるか、言葉で表現してみます。
「さらさら」「ごとごと」「ぴゅー」など、人によって想像する音はちがうでしょう。
音をあらわす言葉で絵についての想像をふくらませることによって、自由に伝え合う楽しさを体験できるでしょう。

借用の 手順

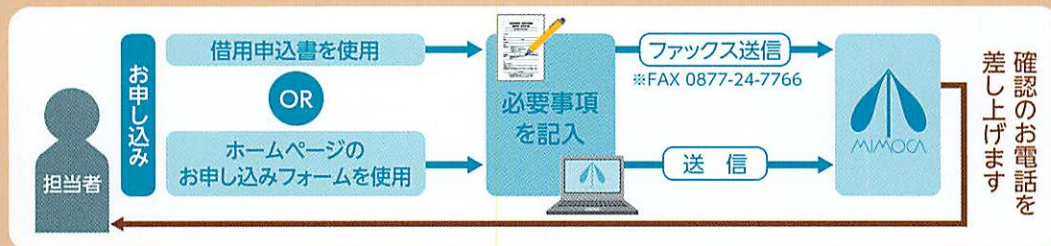
1

挟み込み*の「借用申込書」に必要事項を記入し、FAXにて当館(0877-24-7766)までお送りください。※借用申込書はホームページからダウンロードもできます。また、ホームページからもお申し込みいただけます。

<https://www.mimoca.org/ja/school/tool/>

2

当館より、確認の電話を差し上げます。(お申し込み後、3日経っても連絡がない場合は、お手数ですがご連絡ください。)



使用上の注意

- ◆貸し出された教材を他者へ又貸しすることを厳禁します。ただし、同一学校内および施設内で教材を使用することは可能です。
- ◆教材は借用期間内に必ず返却してください。事情により期限内に返却できない場合は当館までご連絡ください。
- ◆使用后、ご返却の際は、中身を確認し、お返しください。
返却方法は、貸出し時と異なってもかまいません。当館へ直接持ち込まれる場合は、事前に当館スクールプログラム担当までご連絡ください。送付される場合、送料はご負担ください。

作品画像の複製について

公益財団法人ミモカ美術振興財団は猪熊弦一郎の著作権を管理しています。
学校のような公共性のある教育機関には特例措置として、先生および児童・生徒が教材として授業で使う場合には、複製が認められていますが改変等については、注意深く、最小限にすることが望まれます。

問い合わせ先

〒763-0022 丸亀市浜町80-1 TEL 0877-24-7755 FAX 0877-24-7766

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 スクールプログラム担当

<http://mimoca.org> ✉ school@mimoca.org

学校団体で来館を希望される方へ

教材をご使用になったあと、美術館で実物の作品に触れることは子どもたちにとってよい経験になると思います。展示室にて鑑賞の授業を試みたいという方は、ぜひ当館スクールプログラム担当にご相談ください。

また、当館スクールプログラム担当が本教材でもご紹介している対話型の鑑賞を中心に解説もいたします。来館人数、先生のご希望、子どもたちの興味などにあわせてプランを組み立てます。まずは電話・FAXまたはホームページ(<https://www.mimoca.org/ja/school/group/>)よりお申し込み下さい。来館状況等確認し、追ってご連絡いたします。なお、お申し込みは来館希望日の1週間前までです。日時によってはご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

〒763-0022 丸亀市浜町80-1

TEL 0877-24-7755

FAX 0877-24-7766

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
スクールプログラム担当

✉ school@mimoca.org

開館時間 / 10:00—18:00(入館は17:30まで)

下記の内容を本文に記載し、送信ください

【学校名】…

【学年】…

【人数】… 名(うち引率 名)

【来館希望日時】…

年 月 日 曜日 時 分

【滞在時間】… 分

【担当者】…

【電話番号】…

【ファックス番号】…

【メールアドレス】…

【解説】…要(分程度)・不要

【来館の目的】…

常設展(猪熊弦一郎展)・企画展・その他[]

【交通手段】…JR・チャーターバス・徒歩・その他[]

【バス専用駐車場利用】…

あり(台/バス会社名:)・なし

※「あり」を選択された方は、台数とバス会社名もご記入ください。
※利用料金は無料です。ただし先着順の予約制のため駐車可否についてはあらためてご回答いたします。



Q1 ミモカが開館したのはいつ?

幼少時代を丸亀で過ごした猪熊弦一郎の全面的な協力のもと、1991年11月23日に開館しました。

Q2 入館料はいくらですか?

高校生以下または18歳未満の方は無料です。(学校団体で来館する際は、先生も無料です。)

Q3 どんな作品がみられますか?

猪熊本人より寄贈を受けた約2万点に及ぶ猪熊作品を所蔵し、常設展にてご紹介するほか、現代美術を中心とした年数回の特別展を開催しています。

本教材に掲載している作品は当館が所蔵していますが、必ずしも展示しているわけではありません。

詳しくは当館ホームページ(現在開催中の常設展)をご覧ください。

Q4 施設のみどころポイントはどこですか?

美術館正面のゲートプラザには、「創造の広場」という大きな壁画があります。どこかにサインと制作年があるので、探してみてください。

大階段の2階には「草」というオブジェが、3階までのぼると、滝のあるカスケードプラザに「トライアングルアンド レインボー」というオブジェがあります。

Q5 ミモカって何?

ミモカ(MIMOCA)は丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art)の略です。

もっと知りたくなったら、美術館2階にある美術図書室に来てください。

猪熊による「私の履歴書」、コレクションをまとめた「画家のおもちゃ箱」、展覧会カタログなど猪熊関連の図書や、生前の映像が視聴できます。

1902

12月14日、父八太郎、母マサエの長男として香川県高松市に生まれる。教師である父親の仕事にあわせて引越すことが多く、多度津、丸亀、坂出、善通寺に住む。小学校低学年のころ、東京美術学校出身でいこの中村武平さんから絵の具を贈られ、絵の楽しさに熱中する。小学校5年生のときにイーゼルをつくり、それをもってスケッチに歩く。善通寺では学校の窓から騎兵隊の訓練がよく見え、姿の美しい馬ほどよく駆けよく飛ぶことを知る。

1916◀14歳

香川県立丸亀中学校(現 香川県立丸亀高等学校)に入学。学校のそばにある丸亀城の森には五位鷲という淡いブルーとねずみ色の鳥がたぐざん棲んでおり、羽を広げたり休めたりする様子を美しいと思って見ていた。このころから有名画家の絵はがきを模写するなど、本気になって絵を描きはじめる。「画家」と「発明家」のどちらをめざすか迷うが、「発明家」になるには大事な数学がまるで弱かったため絵描きになろうと決心する。

1921◀19歳 《自画像》(★P9)を描く。

1922◀20歳

東京美術学校(現 東京藝術大学)西洋画科に入学。1年の夏休みに香川に帰省中、肋膜炎にかかり1年間休学する。3年のとき藤島武二先生のクラスに入り教えを受ける。絵画とは物を正確にきちんと描くことではなく、それが硬いのかやわらかいのか、冷たいのかあたたかいのかなどその物をよく理解して描くのだと学ぶ。

1926◀24歳

片岡文子と結婚する。帝展(帝國美術院第7回美術展覧会)で着物姿の文子を描いた《婦人像》で初入選。その後9年間入特選をくりかえす。

1935◀33歳

新帝展に反対し不出品の盟を結んだ旧帝展第二部無鑑査の有志と組織した第二部会第1回展に《海と女》(♥大型図版第1弾「みんなのミカタ」ガイドブックP3に掲載)を出品する。

1936◀34歳

芸術を純粋に追い求めたいという8人の仲間と新制作派協会(現 新制作協会)を結成し、若き画家たちのリーダー的存在として注目を集める。

1938◀36歳

妻と二人、船でフランスのパリへ向かう。パリに着いた次の朝、小さな宿から見える街の美しさと、長い間来たいと願っていたパリにいるうれしさを思わずポロポロと涙をこぼす。フランスではおよそ2年をすごし、町の様子やそこで住む人々を描く。

1939◀37歳

画家のアンリ・マティスを訪ね、絵をみてもらう。マティスの「おまえの絵はうますぎる」という言葉に、人に良くみてもらうためではなく、思ったことを素直に、うそや飾りのない姿で描くことが大切だと知る。パリではピカソにも会う。《サクランボ》(♥第1弾P4)、《妻と手袋》(★P10)を描く。第二次世界大戦が始まり、約1ヶ月間、画家の藤田嗣治夫妻とレゼジー村に避難する。

1940◀38歳

《マドモアゼルM》(♥第1弾P5)を最後に描いた後、やむなく日本に帰る。戦時中は、中国・フィリピン・ビルマに派遣される。

1944◀42歳

腎臓の手術を受ける。東京をはなれ、神奈川県津久井郡吉野町(現 藤野町)に妻と猫2匹とピアノとともに疎開する。1945年8月15日、この地で終戦を迎える。

1946◀44歳

東京に帰る。この頃よりたくさんの猫を飼う。多いときには12匹の猫がいて、作品にもよく描かれるようになる。

1948◀46歳

『小説新潮』の1月号から表紙絵原画を描く。以後創刊40周年記念号(1987年9月号)まで連載する。

1950◀48歳

三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。モチーフは千葉の海岸で見つけた角のとれた丸い石。はじめはクリスマス用として作られたが、評判がよく常時使われるようになり現在にいたる。

1951◀49歳

上野駅の壁画《自由》を制作する。戦争の終わった後、人々の気持ちを明るくするものにと、りんごの収穫やスキーをする人々など北国の暮らしを描く。このころ日本に来たイサム・ノグチと出会い生涯の友となる。

1952◀50歳 《猫と住む人》(★P3)を描く。

1955◀53歳

ふたたびパリでの遊学を決意しフランスへ向けて旅立途中、アメリカに立ち寄る。親しい友人にすすめられて先にニューヨークを訪れるが、このときのパリとニューヨークどちらから旅をはじめるかの選択がその後の運命を決める。高いビルがそびえたつニューヨークの底知れないエネルギーにひかれ、この街で勉強し直してみようという力強い勇気と大きな喜びをもって以後20年間創作活動と発表を続ける。アメリカに渡ってから、抽象画を描くようになる。異国の地にあって日本人であることを意識した作品や、量の目のように画面が短い線であめつくされた作品、また空から眺めたような街や風景をテーマにした作品を多く描いた。《驚く可き風景(A)》(♥第1弾P6) 社交的な猪熊夫妻はアメリカ滞在中もデザイナーのイームズ夫妻、画家のマーク・ロスコなど多くの人と交流を持ち、日本からの訪問客も多く「民間大使」と呼ばれた。

1964◀62歳

第6回現代日本美術展に出品した作品で国立近代美術館賞受賞、東京国立近代美術館に収蔵される。翌年、文子の父の見舞いのため10年ぶりに日本に帰る。

1975◀73歳

健康を害し活動が困難になったため、ニューヨークのアトリエを閉じる。この年から冬の間は暖かいハワイで、残りは日本で制作にあたる。陽光あふれるハワイで描くようになってから、色遣いが明るく鮮やかになり、また○や□などさまざまな形が登場するようになる。同じ頃、宇宙をテーマにした作品が多く描かれる。映画「スターウォーズ」が大好きで何度も映画館に通う。

1976◀74歳 《Landscape Green A》(★P11)を描く。

1987◀85歳 《金環食》(★P5)、《太陽は待って居る》(♥第1弾P7)を描く。

1988◀86歳

妻文子、病のため亡くなる。それをきっかけにたくさんの「顔」を描くようになる。

1989◀87歳 《顔20C》(♥第1弾P9)を描く。

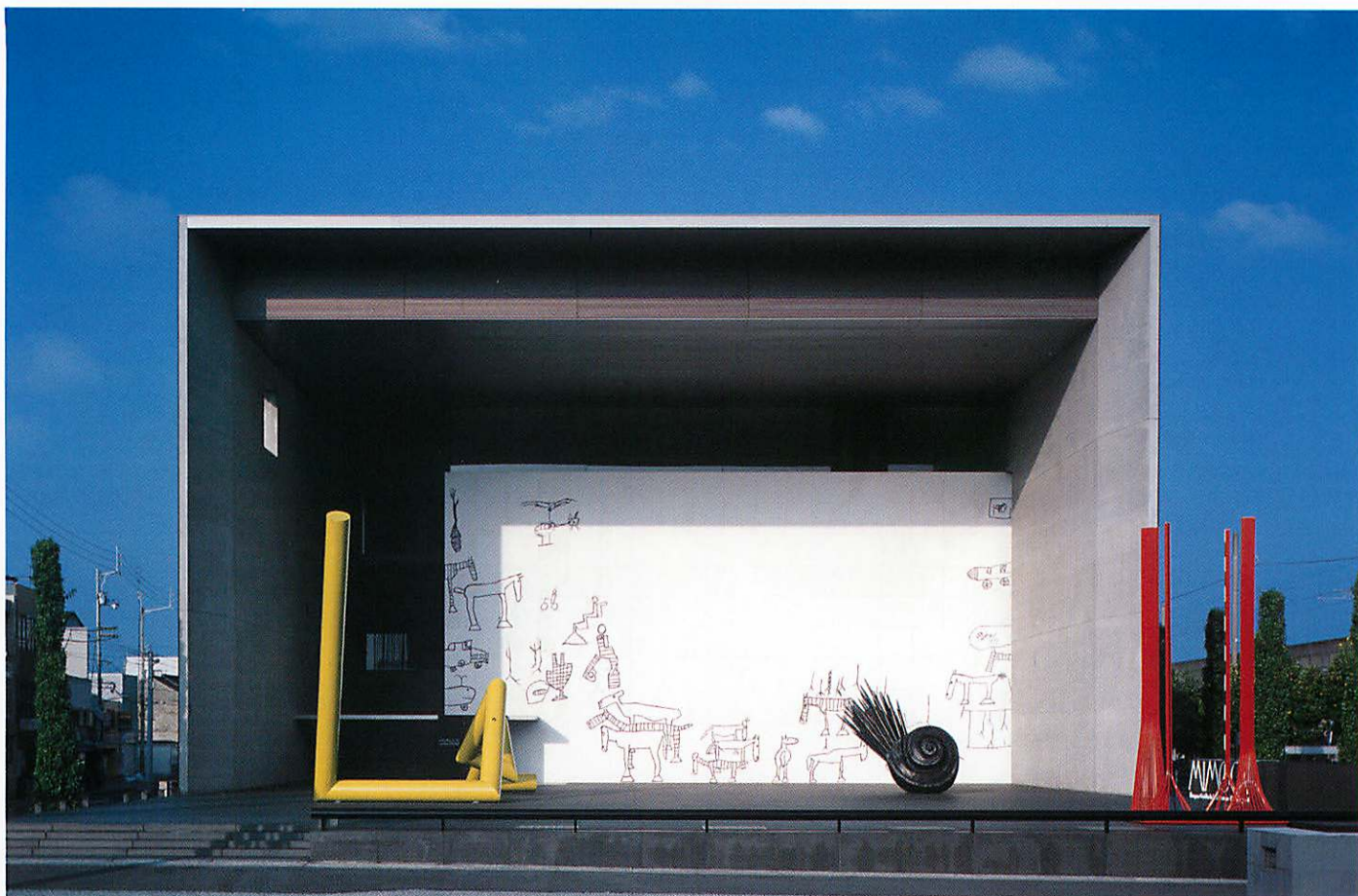
1990◀88歳 《飛ぶ》(★P7)を描く。

1991◀89歳

11月23日、故郷の香川県に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(ミモカ)が開館する。計画段階から猪熊本人が全面的に協力し、美術館正面の大壁画《創造の広場》、館内のいすやトイレのマークにいたるまで猪熊の感性がすみずみまでゆきとどいた美術館となる。天井の高い展示室にあわせて、4メートルにもおよぶ大きな作品《宇宙都市休日》や《手の残した言葉》を制作し「開館記念 猪熊弦一郎展」に出品される。またオープンに先駆けて行われた「美術館開館記念「猪熊先生をかこう!」子どもスケッチ大会」では、ミモカの造形スタジオを歩き回る猪熊自身がモデルとなって子どもたちに描かれ、できた作品は商店街の店先に展示される。「大人になっていかなる職業を選ぼうとも、どんな時も美しいものが理解できる人間に成長してもらいたい」という猪熊の願いを継承してミモカワークショップなど子どもを対象とした取り組みを続ける。

1993

5月17日、亡くなる。90歳。



創造の広場

美術館の顔である大壁画「創造の広場」の前には、向かって左から「星座」、「シエルの歌」、「四つの生命」という3つのオブジェがあります。いずれも猪熊の作品です。

鑑賞学習教材 大型図版

みんなの目

[企画] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
「鑑賞教育について考える会」メンバー

[デザイン] b.c.d

[撮影者] 山本紉

[印刷] 平和写真印刷株式会社

[発行日] 2012年3月31日

*猪熊弦一郎作品 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

TEL 0877-24-7755 FAX 0877-24-7766

<http://mimoca.org>

